申請者：額田 春華

論文題目　産業集積における「柔軟な連結」の達成プロセス

審査員　西口敏宏
関　満博
加藤俊彦

本論文は、東京大田区の綿密なフィールド調査に基づき、産業集積における企業間のダイナミックな相補関係（「柔軟な連結」）が、いかに企業単独では達成できない高いパフォーマンスを生み出しているかを定性的に検討している。

本論文の評価できる点は、以下の3点である。

1）著者が採用した、非言語的な深い現場観察を含む文化人類学的な方法は、その卓越した筆致に助けられて見事に成功しており、そこから得られた微視的な証拠が、従来の大田区等の中小企業研究にはあまり見られない洞察に富んだ仮説を生み出している。

2）町工場における知的熟練、コーディネーション・プロセス、相互学習といった一見馴染みのある諸概念を再訪し、魅力的な事例を挿入しながら的確に論じている。「知的熟練」とは、仕事の内容の変化や多様性に応じて、仕事の根本に流れる原理のようなものに立ち返って、諸要素の組み方を工夫し直し、必要なものを作り上げる能力のことであり、参与者の蓄積された経験や知識を多種多様な文脈に転用するコストを節約し、「柔軟な連結」の達成に役立つ。さらに、地域の共有空間でしか得られない感覚情報を豊かに含む「場の情報」によって、互いの仕事の実行プロセスで示されるであろう能力や意図が的確に判断可能となり、このことによって協業の「コーディネ―ション・プロセス」が促進される。そのような場の情報を、いざというときのために、日常から備え蓄えておくのが信頼ネットワークの役割である。「相互学習」は、地域に埋め込まれた信頼、解釈、価値などの共有情報財に助けられ、質の高い協業の所産を連続的に提供することを可能にする。

3）オリジナルな著作は、すでに語り尽くされたと思われる事象に、新鮮な輝きを与える。この論文はまさにそれをやっている。

本論文の問題点としては、次の3点が指摘される。

1）それまでの注意深い議論展開と分析レベル（大田区産業集積における企業間関係）の維持に対し、第８章では未限定な「社会」「市場全体」「経済全体」等のビッグワードが登場し、既述部分の知見の一般化を試みているが、定義の欠如、分析レベルの揺れ、概念的曖昧さ等により、成功していない。

2）第7章で伊ボローニャとの比較を試みているが、大田区の卓越した取扱いに比べると、不徹底な印象が否めない。

3）著者の大田区モデルを、産業集積一般に適用可能なレベルに持っていこうとする意欲は認められるが、本論文の枠組と証拠では、そのような作業を十分にサポートできない。

以上のような問題点はあるが、本論文は、著者が自立して研究活動を行っていくために不可欠な問題設定、分析枠組設定、調査遂行、分析、推論、体系化の諸能力を十分に有していることを示している。よって、審査員一同は、所定の試験結果をあわせ考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第4条第1項の規定に準じた取扱いにより一橋大学博士(商学)の学位を受けるに値するものと判断する。